
基準 4. 教育内容・方法・成果

(2) 教育課程・教育内容

1. 現状説明

(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1) 短期大学部全体

後述のとおり、学科ごとに教育課程編成・実施の方針に基づき、授業科目を適切に配置し、教育課程を体系的に編成している。

2) 社会福祉学科

教育課程編成・実施の方針および授業科目一覧表のとおり、教育課程編成・実施の方針を実現するために必要な授業科目を全て開設し、教育課程を体系的に編成している。

具体的には、教育課程編成・実施の方針の第1領域「建学の精神」については、建学の精神の意味を深く理解し、高い倫理性を養うために、必修科目である「仏教の思想」を「学部共通科目」として開講している。

第2領域「知識・理解」については、幅広い学問領域について基礎的な知識を身につけるために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目を「学部共通科目」として開講し、6単位以上の修得を卒業要件とするとともに、「学科専攻科目」として、社会福祉についての基礎的な知識を身につけるために、「社会福祉原論」、「社会福祉援助技術総論」、「卒業論文」を必修科目として開講し、さらに社会福祉に関する演習および実習科目を「コース専攻科目」の必修科目として開講している。

第3領域「思考・判断（論理的思考力、創造性）」については、幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考、判断を行うことができるようにするために、人文・社会学系・学際領域系科目からなる教養教育科目を「学部共通科目」として開講し、6単位以上の修得を卒業要件とするとともに、身の生活問題を社会問題の脈絡で考察でき、自分の意見を発表することができるようにするために、「社会福祉原論」、「社会福祉援助技術総論」、「卒業論文」を「学科専攻科目」の必修科目として開講し、さらに社会福祉に関する演習および実習科目を「コース専攻科目」の必修科目として開講している。

第4領域「興味・関心」については、個人と社会の福祉の向上について、探究心を持ちそれを具体的な課題にできるようにするために、「社会福祉原論」、「社会福祉援助技術総論」、「卒業論文」を「学科専攻科目」の必修科目として開講するとともに、社会福祉に関する演習および実習科目を「コース専攻科目」の必修科目として開講している。

第5領域「態度（態度、価値観等）」については、市民としての社会的責任を自覚し、協調性を持ちつつ、リーダーシップを発揮しながら、身辺から他者の権利回復と連帯をつくっていく姿勢を持つとともに、障がいの意味、老いの意味、死の意味、生命の繋がりにつ

いて洞察する姿勢を持つことができるようにするために、「社会福祉原論」、「社会福祉援助技術総論」、「卒業論文」を「学科専攻科目」の必修科目として開講するとともに、社会福祉に関する演習および実習科目を「コース専攻科目」の必修科目として開講している。

第6領域「技能・表現」については、外国語による基本的なコミュニケーションができるようにするために、「学部共通科目」として「英語Ⅰ」を必修科目として開講するとともに、「英語Ⅱ」等の科目を選択科目として開講している。また、コンピュータを操作し、情報分析・発信のための基本的なスキルを身につけるために、「情報処理基礎」を選択科目として複数クラス開講するとともに、いくつかの必修科目において、パソコンを使ったレポート提出を課す等、コンピュータに触れる機会を設けている。さらに、自ら発見した課題を論理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできるようにするとともに、基本的な社会福祉の援助技術を身につけるために、「社会福祉援助技術総論」を「学科専攻科目」の必修科目、演習や実習科目を「学科専攻科目」の必修科目として開講するとともに、社会福祉の援助技術に関連する科目を「学科専攻科目」等の選択科目として開講している。

3) こども教育学科

本学科の教育課程編成は、保育・幼児教育の専門職養成を主たる目的として、「学部共通科目」と「学科専攻科目」の2つから編成される。

「学部共通科目」においては、保育や幼児教育に携わる人間としてのあり方や生き方についての深い洞察力を培うために、親鸞聖人の教えにもとづく建学の精神を含めて仏教思想を幅広く教授する「仏教の思想」を1年次通年に、さらに仏教思想に基づく「共生（ともいき）」の理念と実際を体系的に学ぶ「共生（ともいき）論」を2年次後期に各々配置している。ここでは、学生たちが保育所や入所施設等での実習を複数回経験し、様々な共生（ともいき）の実態はもとより、共生（ともいき）の具現化が難しい場面・状況を見聞した段階で再度、理念や原則に立ち返り、各々の経験と照合させつつ、知識と経験とを総合させることが企図されている。以上の建学の理念に関わる科目を中心に据えつつ、人間や社会、歴史、文化についての深い教養を養うことが、保育や幼児教育に携わる者にとって必要不可欠な知識基盤であると考えることから、基礎的教養の涵養を図る「学部共通科目」を配置している。

また、「学科専攻科目」を保育士および幼稚園教諭の資格・免許状に関わる科目として配置している。具体的には、原論・原理系の科目群として「社会福祉概論」「児童福祉論」「保育原理Ⅰ」「養護原理」等の保育士資格対応科目と、「教育原理」「教育課程総論」「教職論」等の幼稚園教諭免許状対応科目とを中心に、保育内容および教科に関する科目、その他の科目、演習科目、実習科目を配置している。

以上のように、「学部共通科目」においては専門職としての基礎的教養の涵養を図り、「学科専攻科目」においては専門性を高める編成を基本としている。これらを受講するこ

とにより、仏教思想を含めた教養および保育や幼児教育の専門的知識の修得が可能になる。その意味では、本学の教育課程は、卒業後も保育・幼児教育の専門職として成長し続けるための基礎・基盤を形成するものになる。

(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

1) 短期大学部全体

前述した科目区分（学部共通科目、学科専攻科目）の特徴を踏まえ、提供している教育内容を説明する。

①学部共通科目

まず、本学における教養教育の特色を述べる。中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」（2002年2月21日）の重要性や意義は以下のように整理できる。基本となるのは答申に示された新・教養観、すなわち「自らが今どのような地点に立っているのかを見極め、今後どのような目標に向かって進むべきかを考え、目標の実現のために主体的に行動していく力」であり、具体的には以下の5つの要素である。

- (1)社会とのかかわりの中で自己を位置付け律していく力、自ら社会秩序を作り出していく力、より良い新しい時代の創造に向かって行動することができる力、他者の立場に立って考えることができる想像力
- (2)他者や異文化、さらにはその背景にある宗教を理解する等、異なる国や地域の伝統や文化を理解し、互いに尊重し合うことのできる資質・態度、世界の人々と外国語で適確に意思疎通を図る能力
- (3)自然や物の成り立ちを理解し、論理的に対処する能力、科学技術をめぐる倫理的な課題や環境問題等も含めた科学技術の功罪両面についての正確な理解力や判断力
- (4)日常生活を営むための言語技術であるだけでなく、論理的思考力や表現力の根源である読み、書き、考えること、つまり国語の力
- (5)わが国の生活文化や伝統文化の価値を改めて見直すために、礼儀・作法をはじめとして型から入ることによって、身体感覚として身に付けられる「修養的教養」

以上のような教養を構成する力の諸要素を「青年期」の2年間で培う役割を担うのが本学科の教養教育である。その目標は、社会の中での自己の役割や在り方を認識し、より高いものをめざしていくことを意識した知的訓練を行うことにある。

したがって、社会福祉や保育、幼児教育にとって必要不可欠な知識基盤としての教養教育科目を中心に編成している。その特徴は以下のとおりである。

第1の特徴は、建学の理念を修得するために1年次は「仏教の思想」（必修）を通年で開講している点である。「仏教の思想」では親鸞聖人の思想のみならず、広く仏教思想について取り上げ、その生命観や人間観、共生（ともいき）観の基礎的な理解が促される。他方、「共生（ともいき）論」（選択）は学生達が社会福祉や幼児教育の現場等での実習

を複数回経験した段階に位置する2年次後期に開講する。このような科目配置となっているのは、一連の実習を通じて、様々な共生（ともいき）の実態はもとより、共生（ともいき）の具現化が難しい場面・状況を見聞した段階で再度、理念や原則に立ち返り、各々の経験と照合させつつ、知識と経験の総合化を企図するからである。なお、仏教を含め広く宗教と社会福祉、保育・幼児教育との関連を直接扱う科目として「宗教教育」（選択）を1年次前期に開講している。この科目では、宗教に対する理解を深め、真の宗教に根ざした教育の意義と実践の理論を学び、そこから各宗教の教義や理念が社会福祉や幼児教育の現場でどのように具体化されているのかということについて理解するとともに、宗教行事の意味や子どもにとっての意義を概説するため、実習の事前学習機会として配置している。

第2に、英語や国語等言語能力の向上に関わる科目を配置している点である。「英語Ⅰ」（必修）は1年次通年、「英語Ⅱ」（選択）は2年次通年で各々開講する。さらに、龍谷大学の全学的なプログラムである「パークレー語学」と「パークレー講義」が開講され、より実践的な英語力の修得も可能になっている。他方、国語力に関しては学科専攻科目と効果的に連携させつつ、「言語表現論」（選択）を1年次後期、「国語表現法」（選択）を2年次後期に開講する。「言語表現論」は言語表現に対する認識と自覚を促すのに対し、「国語表現法」は卒業を控えた時期において就職試験や編入学試験はもとより、社会人として要請される国語表現力を高める。

第3に短期大学士としての基礎的教養を修得するために、「哲学」「心理学」「日本史」「外国史」「文学」「地理学」「地誌」「法学Ⅰ（日本国憲法を含む）」「法学Ⅱ（日本国憲法を含む）」「社会学」「教育学」（以上すべて選択）といった人文・社会科学系の科目を開講している点である。これらの科目群を通じて、人間や社会、歴史、文化についての教養を修得する。

第4にその他の科目として、現代コミュニケーション・ツールとしての情報機器操作の修得をめざす「情報処理基礎」（選択）や体育関連科目である「スポーツ文化ⅠA」「スポーツ文化ⅠB」（いずれか2単位選択必修）、学生各々の進路選択や将来設計に対する意識化を促す科目として「キャリアデザイン論」（選択）を配置している点である。また、現代人の基礎的素養となる人権啓発科目として「人権思想」（選択）と「ジェンダー論」（選択）を開講している。

②学科専攻科目

1) 社会福祉学科

教育課程編成・実施の方針および短期大学部講義概要（シラバス）のとおり、教育課程編成・実施の方針を実現するために必要な教育内容を全て提供し、教育目標や学位授与方針を実現できるようにしている（資料4(2)-1,4(2)-2）。

2006年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）として採択された「イメージ創生を中心としたキャリア教育－視聴覚教材・学外教育資源・体験型学習を

活用した体系的教育プログラム」をベースに、視聴覚教材の活用、学外教育資源の活用、体験型学習を中心に、主にイメージ創生を図りながら、入学前から卒業後までのキャリア支援の体系化をめざし、入学前教育や導入教育も含めたキャリア教育を展開している。具体的には、「学科専攻科目」の「基礎演習」「教養福祉基礎演習」「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「教養福祉演習Ⅰ」「社会福祉援助技術演習Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」「教養福祉演習Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」「ソーシャルワーク現場実習指導Ⅰ」「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ」「教養福祉実習」を「キャリア啓発科目」として、「ソーシャルワーク現場実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」「ソーシャルワーク現場実習Ⅱ」をキャリア形成科目として開講している。

演習や実習に関する複数クラス開講については、教育内容等を統一させることが有効な場合もあるとの認識のもと、『教員用ハンドブック』を作成し、毎年度教務委員を中心に改訂している（資料4(2)-3）。また、当面の演習や実習に関する連絡事項等をまとめた『実習指導室だより』を実習指導室が編集・発行している（資料4(2)-4）。これらに加え、学科会議やコース会議等を頻繁に開催し、教育内容の吟味を行っている。

2) こども教育学科

前述したように、本学科の教育目標は、保育や幼児教育の現場において子ども同士の「共生（ともいき）」を促し、励まし、見守り、支える専門職を養成することにある。こうした目標を達成するため教育課程の中核には以下の科目を配置している。

(1)必修科目

①保育・幼児教育の本質理解および対象理解に関わる科目

「保育原理Ⅰ」「教育原理」「発達心理学Ⅰ」（以上すべて必修）は、保育および幼児教育の根幹となる科目である。「保育原理Ⅰ」は、保育の本質をはじめ保育の場の歴史と類型、保育の歴史と現状、保育所保育の原理・内容・計画、発達過程区分の保育内容と指導計画、保育所の健康・安全上の留意事項、多様な保育ニーズへの対応上の留意事項、子育てに関する相談援助活動、保育サービスの評価と苦情解決、家庭・地域との連携、保育士の資質と任務について概説する。また、「教育原理」は、教育の意義と目的および児童福祉との関連性、教育の基礎的概念と諸理論、教育の歴史・制度・実践、生涯学習社会における教育、現代の教育問題について概説する。さらに、「発達心理学Ⅰ」はこどもの発達および発達段階の理解、初期経験の重要性、各発達期の特徴、乳幼児期における発達援助を概説する理論的な科目として、保育や幼児教育の対象理解において不可欠の位置づけにある。

②現代社会福祉、なかでも児童福祉の法制度とサービス内容の理解に関わる科目

「社会福祉概論」「児童福祉論」「養護原理」（以上すべて必修）は、いずれも保育士資格必修の科目である。「社会福祉概論」は、現代社会における社会福祉の意義と理念、社会福祉の法体系や制度および行財政、サービス体系における公私の役割活動、社会福祉援

助技術および福祉専門職の役割、社会福祉関連領域（医療福祉・地域福祉・ボランティア活動の概要）、利用者保護制度（第三者評価、苦情解決、権利擁護、情報提供等）の概要について概説する。また、「児童福祉論」は、児童福祉の意義および歴史的展開過程、法律や制度、福祉機関・施設、児童福祉サービスの現状と課題、児童福祉専門職としての保育士の役割、児童・家族に対する相談援助活動について概説する。さらに、「養護原理」は、児童養護の概念、施設における児童養護、施設養護の実際、児童福祉施設の運営・管理と援助者、今後の課題について概説する。

③保育・幼児教育の方法理解に関わる科目

「保育内容総論」「保育内容Ⅰ（健康）」「保育内容Ⅰ（人間関係）」「保育内容Ⅰ（環境）」「保育内容Ⅰ（言葉）」「保育内容Ⅰ（表現）」「保育内容Ⅱ（表現）」（以上すべて必修）は、いずれも保育や幼児教育の内容に関する個別・具体的な理解と、その実践方法の修得をめざして配置されている。これらの科目の受講によって、保育および幼児教育の専門職としての具体的な方法論を獲得できるという意味で必修科目として配置している。

以上、①保育・幼児教育の本質理解および対象理解に関わる科目、②現代社会福祉、なかでも児童福祉の法制度とサービス内容の理解に関わる科目、③保育・幼児教育の方法理解に関わる科目は、いずれも子ども同士の「共生（ともいき）」を促し、励まし、見守り、支える専門職の養成を教育目標とする本学科において必修に値する科目である。

(2)選択科目

第1に、「教育心理学」「小児保健」「小児保健実習」「小児栄養」「精神保健」「家族援助論」「発達心理学Ⅱ」「臨床心理学」「家庭管理」等（以上すべて選択）は、いずれも保育・幼児教育の専門職が対象となる子どもとその家族を心理学や医学、栄養学、家政学、社会福祉学の知見を踏まえて多面・多角的に理解を深めるために配置する。

第2に、「乳児保育」「障害児保育」「養護内容」「教育課程総論」「教育方法論」「教育相談」等（以上すべて選択）は、属性別の保育内容や教育方法に関する科目である。

第3に、「基礎技能Ⅰ（図画工作）」「基礎技能Ⅰ（体育）」「基礎技能Ⅰ（音楽）」「基礎技能Ⅱ（音楽）」「児童文化」「文章作法」等（以上すべて選択）は、保育や幼児教育の実践における基礎技能としての図画工作、体育、音楽について理論的な知識と実践的な技術の修得をめざす科目、また絵本やおもちゃ等を含め広く児童文化の現状や課題の理解を深める科目、専門職として要請される基本的な文章作法の修得をめざす科目である。

第4に、「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「教育実習」（以上すべて選択）は、いずれも保育士または幼稚園教諭二種免許取得に必要な学外実習科目である。

第5に、「保育実践演習」「保育・教職実践演習（幼稚園）」等（以上すべて選択）は保育・幼児教育の専門職志望者向けに開講される演習科目である。

2. 点検・評価

○基準の充足状況

学位授与方針および教育課程編成・実施の方針に即して、十分な教育成果を上げるための教育内容を整備・充実させているが、教育内容の改善に向けた取り組みの効果を検証する方法に改善の余地がある。

(1) 効果が上がっている事項

1) 社会福祉学科

必修科目を受講するだけで教育課程編成・実施の方針で定めた「学生に保証する基本的な資質」をおおむね網羅できるようにしており、教育課程編成・実施の方針に基づいた教育がより確実に行われ、卒業生の質保証の実質化を図っている。

2) こども教育学科

本学科は 2011 年 4 月に新設されたため、2013 年 3 月末の完成年度の完了までは、文部科学省への設置申請を行った際の「設置の趣旨等を記載した書類」に準拠しているところである。つまり、現行の教育課程・教育内容は大学設置審議会による適切性の判断を踏まえたものであると考えられる。

(2) 改善すべき事項

1) 社会福祉学科

教員用ハンドブックや実習指導室だよりの編集・発行は、教育内容の統一化という効果を上げていると思われるが、その効果を検証する作業は十分には行われていない。また、学科会議やコース会議等の開催についても、適切な教育内容を導き出すことに効果を上げていると思われるが、その効果を検証する作業は十分には行われていない。

2) こども教育学科

本学科の教育課程・教育内容は、大学設置審議会による適切性の判断を踏まえたものであるが、2012 年度で完成年度を迎えるにあたって、改めてその適切性を検討することが必要だと考えられる。また、本学科の教育課程・教育内容は、保育士資格および幼稚園教諭二種免許状の取得に対応しており、各資格・免許状に関する現行教育課程の見直しや変更等が今後も想定される。そのため、それらの動向に即応していく必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

(1) 効果が上がっている事項

1) 社会福祉学科

必修科目を受講するだけで教育課程編成・実施の方針で定めた「学生に保証する基本的

な資質」をおおむね網羅できるようにしているが、「学生に保証する基本的な資質」をより高度に身につけられるよう、2012年度中に学科会議や教授会等においてカリキュラム改革について検討し、2013年度より新たなカリキュラムを導入することとなった。2013年度は、その効果の検証を行う。

2) こども教育学科

2012年度は本学科設置2年目であり、完成年度をむかえることになる。2013年度は、その2年間の効果の検証を行い、改善点を検討する。

(2) 改善すべき事項

1) 社会福祉学科

教員用ハンドブックや実習指導室だよりの編集・発行、学科会議やコース会議等の開催が、教員間の情報の共有化につながり、適切な教育内容を導き出すことに一定の効果を上げている。具体的な効果を検証する目的で、教員を対象としたアンケート調査等を、2013年度に組織的・計画的に検討し、実施する。

2) こども教育学科

学科会議を中心に、2012年度で完成年度を迎えた教育課程・教育内容の効果の検証作業を行う。そして、その結果を教育課程・教育内容の変更に活かし、より適切性を担保した教育課程・教育内容の構築を目指す。それと同時に、こうした作業をより組織的・計画的に実施するための方策についても検討する。

4. 根拠資料

4(2)-1 2012年度 短期大学部講義概要(シラバス)

4(2)-2 2012年度 授業科目時間割表

4(2)-3 龍谷大学短期大学部 2012年度教員用ハンドブック (既出 資料1-3)

4(2)-4 実習指導室だより